

提出年月日: 令和元年 9 月 17 日

提案団体名: アイシン精機株式会社

自動バレー駐車

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください	
技術の概要・実績等	技術の分野
自動車の保有から使用・活用に世の中の大きな流れの変化がみられる中、今後トレンドとなる社会の変化を捉えつつ技術開発の視点で、自動運転の領域で技術開発を行ってきました。 当社では、駐車が苦手だというユーザーからの声を受け、2003年に世界初の駐車支援システムとなった「インテリジェントパーキングアシスト」を量産車に搭載を開始しました。カメラで駐車場にある白線を検知し、その白線に対してどのようにハンドルを切ればいいのかをコンピュータが計算をして、ハンドル操作を自動で行うものでした。 インテリジェントパーキングアシストで培った技術の発展型として自動運転の形を追求した結果、自動バレー駐車領域で自動運転を実現を狙うため、画像認識技術、および超音波センサーで障害物を認識する技術を進化させることで狭小地での駐車技術を進化実現して参りました。 未来を実感できる自動バレー駐車の実証実験(経済産業省事業「高度な自動走行システムの社会実装に向けた研究開発・実証事業:自動バレーパーキングの実証及び高度な自動走行システムの実現に必要な研究開発)において当社技術を紹介させていただきました。	【6】
(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください	
解決する課題のイメージ	課題の分類
スマートシティを構成するにあたって当該地域内での駐車スペースの確保は必要かと思われます。 当社の自動バレー駐車の実証実験は、ビークル側が持つ画像認識、障害物認識、自動操舵システム等に加えインフラ(駐車場等)側との連携により、例えば、狭小地を最大限に活用した駐車場を実現することが可能です。従いまして、スマートシティの設計段階でインフラの有効活用に資するシステムを提供できるものと思料しております。	【サ】
(3) その他	
特になし	

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総務部東京事務所	前田 紀美	03-5446-5751	kimi@csd.aisin.co.jp